

令和 5 年度政務活動費収支報告書

総社市議会議員 荒木 将之介

1 収 入

政務活動費 420,000 円 利子 3 円

2 支 出

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費		
研 修 費		
広 報 費	42,900	活動報告広報紙費用
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
人 件 費		
事 務 所 費		
合 計	42,900	

3 残額 377,103 円

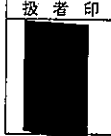
(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

領収書等貼付用紙

議員氏名 荒木 将之介

支出年月日	令和 6 年 2 月 29 日 (～令和 年 月 日)
金 額	42,900 円
使途項目 (該当を○で囲む)	調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

(領収書等貼付欄)

領 収 証		No. 024841
荒木 まさのすけ 様		2024 年 2 月 29 日
金額	¥ 42,900	請求額
但し 長3封筒、市政報告 印刷代にて 上記金額正に領収致しました		内 現金 ○ 小切手 手形 値引 相殺
収 入 印 紙	 サンコー印刷株式会社 〒719-1137 岡山県総社市駅前七丁目 番地5 Tel. 0866-93-2121 Fax 0866-93-9601	扱 者 印 

(使途等)

活動報告広報紙及び封筒印刷代

(按分及び按分理由等記入欄)

※按分した場合に記入



総社市

まさのすけ
荒木将之介

総社市久代4433番地

070-4158-1247

araki.masanosuke@gmail.com

総社市議会議員 荒木 泰之助の市政報告 vol.2

事務所：総社市久代 4433 電話：070-4153-1247 mail: arakimetsunosuke@gmail.com

令和6年は元日の能登半島地震、2日の航空機事故など波乱の幕開けとなりました。国会も紛糾し日本全体をなにか不穏な空気が覆っているような気さえしてきます。被災された方・被害に遭われた方の1日も早い復旧・回復と、国政の正常化を願うばかりです。

私はというと、市議会議員としてまもなく2年半をむかえます。「誠実に、真摯に、揺るぎなく」を信条とし走り続けてきた前回の市政報告以降の活動を、一般質問を中心に振り返りご報告いたします。



委員会 / 意見交換会 / 視察 ほか

常任委員会

昨年10月までは総務生活委員会に所属し、上程議案の所管に関する事項の審査のほか、新庁舎やDX化に関すること、人口増施策に関すること、防災に関することなどを調査しました。また昨年1月には静岡県掛川市・愛知県豊橋市を、防災やDXについて視察しました。

10月からは産業建設委員会に所属しています。まだまだ慣れないところも多いですが、道路や水道、農商工業、観光といった生活基盤に関わることの多い部分を所管しています。

広聴広報委員会

前期に引き続き広聴広報委員会に所属しています。議会だよりの編集に携わり、取材等も行っています。昨年10月には副委員長を拝命しました。

総社広域環境施設組合

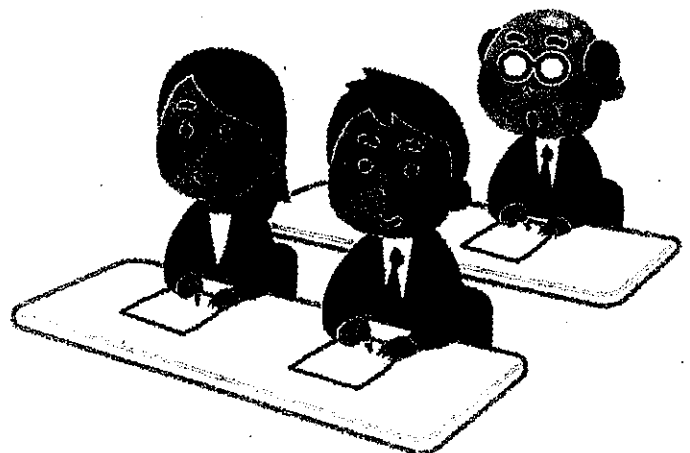
広域環境施設組合は、市民の生活を支えるゴミ処理・し尿処理施設の運営を行っています。昨年10月に他議員と交代し出向を終えました。

意見交換会

議会を3班に分け、地域づくり協議会と意見交換会を行っています。これまでに班員として、三須地区、総社小学校区、北小学校区、山手の方々と意見交換を行いました。また他班担当の交換会へも、広聴広報委員として取材のため出席しています。

研修・視察

委員会視察とは別に、先進地視察や会議への参加・傍聴なども行っています。公務以外でのこうした見聞や体験から学べることは非常に多く、後の議員活動にも活かされています。



令和4年11月定例議会 日中一時支援事業について

◎質問概要

- ▶ 令和4年7月に改訂された委託料を再改訂できないか

◎日中一時支援事業とは

- ▶ 障がい者・障がい児の日中の活動を支援し家族の就労支援と介護者の一時的な休息が目的
- ▶ 民間の事業所が自治体の委託で行う
- ▶ 委託料は自治体によって違う

◎質問に至った経緯

- ▶ 基本的に委託料のみで運営している日中一時支援事業の委託料が大幅に減額された
- ▶ 利用者は助かるかもしれないが事業所は運営がなりたらず閉所もやむを得ない状況に
- ▶ 障がい者・障がい児、特に子どもたちの行き場所がなくなってしまう

◎市長答弁

- ▶ 再改訂し令和5年度当初予算に盛り込む

◎その後

- ▶ 委託料は以前と同等までとはいかないまでも再改訂され、現在も各事業所は運営を続けている



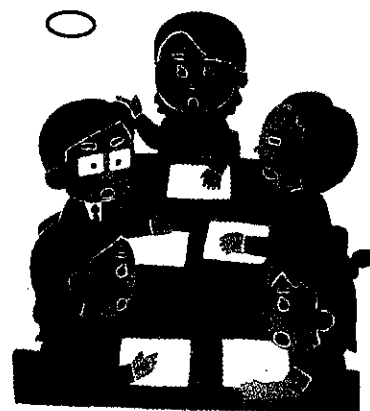
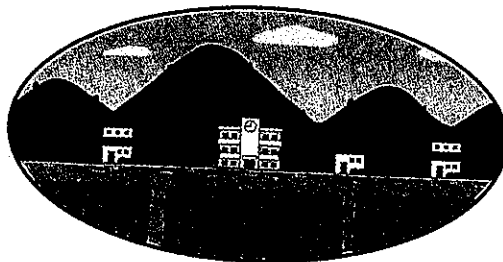
令和5年2月定例議会 地区計画について

◎質問概要

- ▶ 人口減少の著しい農業地域でも地区計画を行うつもりはあるか

◎既存集落維持型地区計画とは

- ▶ 市街化調整区域において、集落の維持を目的とした整備や開発を行うことができる住民提案型の制度
- ▶ 一定の要件を満たせば新築戸建てが可能



◎質問に至った経緯

- ▶ 新聞インタビューにて市長から「農振地域にも地区計画を」との発言があったため真意を確認

◎市長答弁

- ▶ 農振地域や土砂災害警戒区域に地区計画は作成できない
- ▶ 地区計画のために農振除外はできない
- ▶ 地区計画が難しい地域については中央省庁にお願いするなどして頑張るしかない



令和5年6月定例議会 クリーンライフ100構想と 市内の污水处理施設について

◎質問概要

- ▶久代周辺に公共下水を敷設できないか
- ▶あおいハイツの污水处理設備の管理や修繕を助成できないか

◎クリーンライフ100構想とは

- ▶県が策定する指針で、下水・集落排水・合併処理を合わせた污水处理施設の人口普及率100%を目指すもの
- ▶県の規定に基づき、費用対効果の観点から集合処理・個別処理のどちらが妥当かを選定し色分けしている

◎質問に至った経緯

- ▶クリーンライフ100構想において集合処理が妥当とされながら、未だ下水道や集落排水が未整備の地区がある
- ▶あおいハイツ500余世帯は独自の集合処理設備を管理運用しているが、大規模修繕にかかる費用は莫大になるため困っている
- ▶同様の処理設備を擁する西坂台団地には修繕工事費に対し助成がある



市長答弁

- ▶あおいハイツを含む地域は集合処理が妥当な区域ではあるが、国の補助もなくなる中公共下水を敷設するのは難しい
- ▶地域の方の修繕計画を元に、何らかの助成を約束する

令和5年8月定例議会 市内の保育事情について

◎質問概要

- ▶認可保育所を新設する考えはないか

◎認可保育所と認可外保育施設の違い

- ▶認可保育所は解説や運営にあたり公的な補助(国や県含む)が受けられる
- ▶認可外保育施設は基本的に公的補助はない
- ▶このため認可外保育施設は経営が厳しく、認可保育所と比べて保育料が高額になる場合がある



◎質問に至った経緯

- ▶現在総社市では認可保育所の定員が足りておらず、待機児童・希望する施設に入所できない児童を合わせると、毎年100人を超えている
- ▶足りない部分を認可外保育施設が補っているが、経営が厳しく閉所に追い込まれる施設も
- ▶人口増・維持を考える上でも子育て世代の就労を支える保育施設の充実は必須

◎市長答弁

- ▶現時点では考えていない
- ▶幼稚園給食や延長保育を開始し、認可外保育施設への助成も予定しているので、現状どうにかなっている
- ▶待機児童問題は人口増にとっても重要な課題なので随時検討をしていく

令和5年11月定例議会 新生活交通雪舟くんについて

◎質問概要

- ▶雪舟くんをリニューアルする考えはないか

◎雪舟くんとは

- ▶予約制の乗り合いで運行され、玄関から目的地までをドア to ドアで利用できる
- ▶市内を4つのエリア+共通エリアに分け各エリアと共通エリアを結ぶ形で運行
- ▶高齢者などの日常の移動手段を確保するために生まれた

◎質問に至った経緯

- ▶予約が取れないとの意見を多く聞く
- ▶朝夕の通勤通学時間帯に走っていない
- ▶乗りたい時に乗れないのでは公共交通機関の機能を果たしていない
- ▶以上のような理由から、運転免許証の自主返納に踏み切れない人が多数いる

◎提案

- ▶各エリア(地域)内を小型の車両でデマンド運行し、地域~共通エリアを大型輸送する大規模なリニューアルを行ってはどうか



◎市長答弁

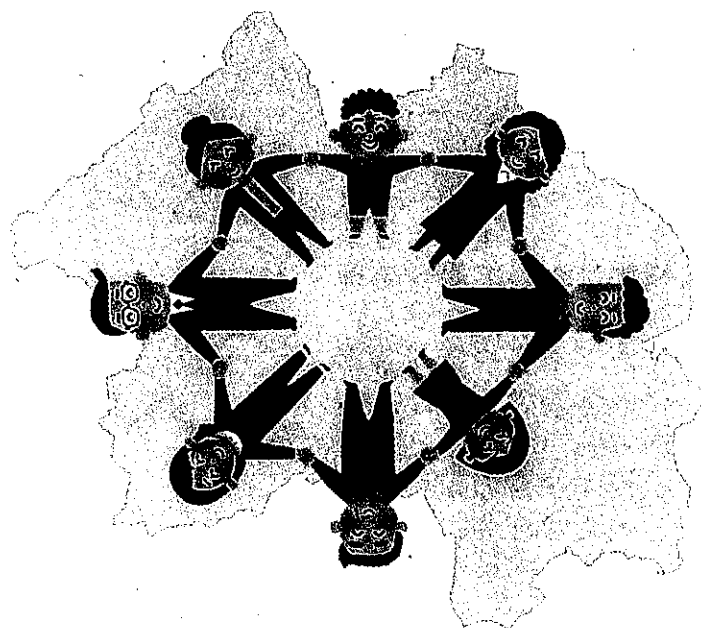
- ▶市民の利便性やタクシー業者も守りながら方策の設定を行う
- ▶提案も参考にする

荒木まさのすけ

昭和48年7月9日 総社市久代生まれ 妻・長男・長女・父・母と同居
 総社西小学校~総社中学校~総社高等学校~東京水産大学卒
 荒木製材所 / 株式会社クロレラ科学研究所 勤務
 総社商工会議所青年部13代会長 / 消防団員

これからのこと……

総社市は依然人口7万人弱を維持し、不動産業者のアンケートでも住み続けたい街として上位にランクインしていますが、人口増加地域と減少地域の格差が日増しに大きくなり、それぞれに問題を抱えています。また今後は全市的に人口が減少し、高齢化率はさらに上がっていくと考えられます。人口減少や高齢化率の上昇は、地域の活力衰退のみならず、税収減や福祉予算増に繋がり、財政を圧迫していくこととなります。結果、自治体としての魅力も失われていきます。こうした問題はすでに全国の自治体で起こり始めていて、もちろん総社市も例外ではありません。



「総社市民でよかった!」と思えるまちにするためには、厳しい表現にはなりますが、他の自治体との生き残りに勝ち続けていくことが必要だとも言えます。市民のみなさんが自信を持って「総社はええよ!」と周りに自慢できるよう、就労を含めた子育て環境の整備や安心して暮らせるインフラの整備に、より一層注力していきたいと思っています。

